

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200410		
法人名	株式会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘（花ユニット）		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵衛新田第5地割28番地2		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月20日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○現在70代から90代まで幅広い年齢層の方が暮らしており、ご利用者一人ひとりのペースを大事にしたケアを実践できるように努めている。
○近隣の保育園や、幼稚園児童館との交流や地区の行事などを通して、地域との繋がりを深めるように努力しているが、コロナ禍の影響により見合わせている。
○毎月、職員の知識や技術、教養を高めるよう、内部研修を行っている。
○職員のリフレッシュを目的に、長期休暇の促進や、図鑑での有給休暇を活用して、子供のいる主婦層でも安心して働ける環境を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の徒歩圏内にJR矢幅駅や矢巾町役場、田園ホール等があり、近隣には保育園、幼稚園やスーパーマーケット、コンビニなどがある。地域との付き合いや利用者の日常的な外出の支援に取り組みやすい住環境にある。グループホームには幅広い年齢層の利用者が暮らしているが、職員の年齢、経験年数など職員構成に厚みと幅があり、利用者一人一人の個性や歩んできた人生に応じた柔軟で丁寧な支援ができるようになっている。子育てなどにも配慮した就労時間と夜勤の回数などの勤務体制や、相談しやすい職場環境がつけられているとともに、内部研修が積極的に行われている。そのため職員は、安心して意欲的に業務に取り組むことができ、利用者と共に行動するなど、利用者の思いに寄り添って日々の暮らしを支えている。また、身体拘束をしないケアと権利擁護に力を入れており、スピーチロックを含めたこれらの研修や話し合いを積極的に行っていて、身体拘束等をしないケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に毎日職員全員で理念の唱和を行っている。又、職員の目に止まる場所に張り出してそれに基づき実践している。	事業所の理念を「人としての尊厳を守る、共生・協働の精神、自己実現への導き」と定め、毎日朝礼時に全体で唱和し、その後ユニットごとにミーティングでも確認して、実践につなげている。利用者の尊厳を守ったケアをカンファレンスで振り返り、協働の精神で利用者と共に行動し、食事では時間がかかっても利用者が自分で食べれるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防に留意しながら学生の実習を行っている。また、地域の交流はコロナ禍で中止となっているが今後は様子を見ながら可能な限り参加を考え地域との交流支援を行う。	町内会に加入し、地域の行事やお祭りに参加していたが、現在はコロナ禍により地域の行事が中止されている。今年は、公民館主催の文化祭が再開され、事業所からは利用者の作品展示に参加している。昨年度は学生の実習を受け入れたり、地域の学校に認知症サポーター講座の講師派遣を行った。事業所付近の散歩は欠かさず行っており、散歩途中に利用者と近隣住民が雑談を交わし、近隣の住民からトマトやスイカなどの差し入れもいただいている。	コロナ禍により、これまで行っていた地域とのさまざまな交流を再開することが難しい状況が続いていますが、町内会に加入しているので、事業所を理解してもらえる情報や認知症ケアに関する豆知識などを載せた広報チラシを作成し、町内会の回覧板に挟んでもらうなどして、コロナ禍にあっても地域とのつながりが保たれるよう取り組んでいくことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室等を開催し地域の方々へ認知症への理解を深めるように取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行い地域の代表の方々やご家族の代表の方々よりお話や意見を頂きながらサービスの向上に向け努力している。	コロナ禍でも感染対策に留意し、運営推進会議を2カ月に1回対面で開催している。会議には、家族代表、町職員、地域包括支援センター職員、自治会役員、民生委員、近隣住民のほか、今年の6月から利用者代表も参加している。交番所からも参加してもらい、防犯について出された意見をサービス向上に活かしている。運営推進会議の内容については、リーダー会議と全体会議で知らせ、職員間で情報を共有している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者と相談や話し合いを行って助言をいただき、ケアサービスの向上に努めている。	町からは介護保険に関する情報等の提供を受け、事業所からは水防などで困っていることを相談している。運営推進会議の結果を報告するため、町役場の担当課に出向き、担当者と話し合う機会をつくり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘内で身体拘束対策委員会を設け身体拘束の防止の取り組みや研修を行い、理解を深めている。	荘長、各ユニットリーダー、運営推進会議メンバーから構成される身体拘束廃止委員会を2ヵ月ごとに開催している。毎月のカンファレンスで身体拘束防止のための話し合いを行い、また、スピーチロックを防ぐための具体的言い換え方などの内部研修を年2回実施して、身体拘束をしないケアについて、理解の深掘りと実践に取り組んでいる。職員の見守りによって、昼間は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	荘内研修やカンファレンスにて話し合い、虐待が起こらないように声をかけ合い、努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学んだ制度を全体会議やカンファレンスで全職員に伝達し、対応できるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は管理者一人では行わずケアマネージャーやユニットリーダーも同席し、家族様に十分な説明をし理解して頂き統括し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には、入居者様、家族様にも参加して頂き、意見や要望を汲み取り施設全体で共有し運営に反映させている。	運営推進会議に参加している家族代表や利用者から意見を聞く機会があるほか、日常生活の支援をしている中で、利用者の意見・要望を把握するように努めている。利用者の生活状況を記載した「生活の様子」を毎月家族に送付しており、家族からは通院の付添いや面会で来所した際に意見・要望を聞いている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスにおいて意見、提案を聞ける機会を設け反映させるように努力をしている。	毎月、各ユニットの職員が参加する「ユニット会議」、各ユニットのリーダー・管理者・法人経営者で構成する「リーダー会議」、事業所の全員が参加する「全体会議」を開催し、運営に関する職員の意見や機器購入の提案について話し合っている。管理者と職員の個別面談も定期的に行っているほか、年度末には法人経営者との面談も行い、個別に職員の要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状態や就業形態の希望を汲み取り、各自がやりがいの持てるような環境を整え向上を図っている。また、個々の面接も定期的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や技術を向上出来るよう研修等の参加を働きかけ、研修の日程を掲示し資格取得に向けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会等へ参加し、意見交換等で得た情報を施設に持ち帰りサービスの向上につなげられるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居様の情報等を職員全員で把握し、そのうえで要望をお聞きし安心していただくように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と面談し、なるべく希望に沿えるように困っている事や不安なことに常に耳を傾け対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様がその時必要としている支援を見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事は積極的に行っていただきながら、職員は見守りや声掛けをしながらともに暮らしが出来る関係になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の生活状況をお伝えするために、月に一度お手紙を送り、必要に応じて連絡を取り合い、家族様と情報共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切な人や場所をこれからも大事にさせていただくよう話題にしたり写真なども活用している。コロナ禍ではあるが出来る範囲で支援している。	コロナ禍で、家族との面会はオンラインやガラス越しで行っていたが、現在は、玄関先で直接面会している。利用者一人一人の1年の生活の様子を記録したアルバムを作成し、家族に届けたり、家族との電話をとりもったりして、絆を保つようにしている。また、家族の住んでいる場所にドライブに出掛けたりもしている。訪問看護ステーションの看護師や月に2回訪問してくれる理美容師と、新たな馴染みとなっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様の普段の様子を観察し、相性や個性を考え職員が入居者様同士の間に入り常に声掛けしフォローできるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を大切にし、本人、家族の経過を見守り支援に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人に思いや意思を尊重することを心がけ、その人らしい暮らしを続けられるように努めている。	日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。利用者の多くは自分の思いを話すことができるが、自分の思いを話さない利用者には、丁寧に問いかけたり、様々な状況からくみ取ってトイレ誘導等の支援を行っている。把握した情報はタブレットのファイルに入力し、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを把握するため、家族様や本人からの情報により把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の健康状態を把握し、バイタル測定や観察により対応している。一日に何度か体調の確認をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて職員同士での情報交換や意見を交わし、本人がより良い暮らしを送れるように現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを居室担当者が主として行いながら、カンファレンスに参加している職員全員が情報や意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、訪問看護師や家族の意見も聞きながら、介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき本人の日々の様子を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常行っていないサービスでも、本人の状況や家族様の希望に沿って、柔軟にその他のサービスを提供している。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年も感染症予防の為地域の行事などに参加することは避けているがそれぞれに合った地域資源を把握、活用し住み慣れた矢巾町での生活を断ち切られないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族様が望むかかりつけ医の受診を継続し主治医との密な関係を築きながら、顔の見える関係を構築している。	利用者のほとんどが入居前のかかりつけ医に通院している。受診に家族が付き添うことができないときは、職員が付き添っている。通院時には利用者の状態の変化や気になることを記載した書面を家族に託し、受診結果を家族から聞き取りしている。各ユニットに看護師を配置しているほか、週1回訪問看護師も来て、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	荘内看護師や訪問看護師と連携を図り、体調の変化が相談できるよう適切な関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した場合は、直ちに本人の情報を病院に提供している。病院、家族様とカンファレンスを行い、早期退院へ向け関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の本人の状況について主治医、荘内看護師、訪問看護師、家族様と相談しながら全員で方針を共有し支援している。	入居の際に、利用者と家族に重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針を説明している。看取り介護は行わないものの、話し合いにより看取り介護の直前までの支援を行い、希望に沿って入院や特別養護老人ホームへの入所（転居）の支援を行っている。前回、目標達成計画を立て、看取り介護を行えるような体制の整備を目指し、そのための研修に取り組むこととしていたが、看取り介護を希望している利用者・家族がいないことや職員態勢等から、目標達成に向けた具体的な取り組みは行っていない。	現在は看取り介護に対応できる態勢が整わない状況にあることから、このことについて利用者・家族の理解を得るとともに、利用者の次の受け入れ先等との連携を十分に図ることを期待します。また、今後、利用者・家族の意向がある場合に対応できるような体制のあり方について、引き続き検討していくことを期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて救急対応を訓練し、落ち着いた行動ができるように努めている。夜間の急変や事故等に備え訪問看護師や荘内看護師との24時間の連絡体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、昼、夜間を想定し避難訓練を行っており、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練と水防訓練をそれぞれ年2回実施している。火災時には事業所近隣の方々から避難場所での利用者の見守りについて協力をいただく体制が築かれており、訓練にも参加してもらっている。ハザードマップでは浸水区域に指定されているが、利用者の状況等から町と協議の上、町の指定避難場所ではなく、エレベーターを利用した事業所2階への垂直避難を想定している。非常用の食糧、備品として、3日分の水、米や石油ストーブなどを備蓄している。また、今年度は救命救急講習会を実施している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人生を尊重し、それぞれの性格や環境背景を理解し、プライバシーへの配慮を行いながら声掛け等を行っている。	利用者の歩んできた人生を理解して、敬意をもった話しかけや一人一人の希望やペースを尊重した対応に努めている。プライバシー保護に関する研修を実施し、特に入浴や排泄に当たってはプライバシーの確保に留意しているほか、居室のドアに鍵をかけたい利用者には鍵をかけさせたり（障子の窓があるので、様子は観察できる）して、利用者の一人一人のプライバシーと人格を尊重して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定を否定せず傾聴しなるべく本人の思いをかなえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大切にし個々に合った日常を過ごしていただいている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや服装など季節に合った身だしなみができるよう家族様に相談し支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器などに気を配り提供している。その後の片づけや食器拭き等本人の能力に合わせて活動支援を行っている。	食事は2ユニット一緒に職員が利用者の好みを入れながら調理し、食事の前にメニューを紹介し、職員も利用者と同じ料理を食べている。また、利用者のペースや食べる力を尊重し、できるだけ利用者が自分で食べられるように支援している。誕生会や季節の行事食には、ケーキや花見弁当、寿司などが出されたり、月1回は外から弁当をとる日もあり、利用者の楽しみとなっている。利用者も野菜の皮をむいたり、テーブルを拭いたり、下膳をしたり、利用者ができることは職員と一緒にやっている。コロナ禍前は利用者と職員が同席して食べていたが、現在は少し距離をとり、向かい合うように座って食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の心がけや本人の希望に合ったものを提供している。個々の状況に合わせた食事量、食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力でできる方は見守りを行い、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。毎月の訪問歯科の際、必要な利用者様にはケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄の習慣を活かしトイレでの排泄を促しながら支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって声掛けをしている。自分で排泄できる利用者が多く、入居前に失禁することがあった利用者もトイレでの排泄が可能となった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給め工夫を行いレクや散歩、テレビ体操等を行い、身体を動かしていただけるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	すべての希望をかなえることはできていないが、本人の訴えがある時は可能な限り対応できるように努めている。	入浴は健康管理をしながら、基本として週2回、午前に行っているが、希望によって日をずらしたり、午後に行うこともある。入浴時は利用者と職員が1対1となるので、利用者が普段ホールで話さないことや経歴などを聞くことがあり、利用者のことをよく知る機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は本人が安眠できる環境を整えている。ホール内でも個々が自由に使えるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬などが起こらないよう職員間での確認をおこない服薬支援を行っている。また、状況の変化に応じて主治医に相談し、変更や調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし食後の片づけ、洗濯物たたみ等を役割として行っていたいっている。楽しみごとや気分転換を生活の中に取り入れて支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年も感染症予防の為人の多い場所に行くことは避け、車中から外の景色を眺めたり、天気の良い日には外気浴などを行うよう支援している。	コロナ禍により買い物など人の多い場所に出かけることは控えているが、春や秋には周辺ヘドライプに行き、車窓からの景色を楽しんでいる。また、事業所の近辺を散歩したり、敷地内で外気浴をしたり、洗濯物干し・ゴミ出しで建物の外に出たりする機会を作っているほか、家族の協力で外食に出かける利用者もいる。	コロナ禍で外出は慎重にならざるを得ない状況にありますが、感染防止対策をとりながら、事業所周辺の店や馴染みの店に買い物にも出かけるなど、日常的な外出を楽しめる機会をできるだけ多く作るように期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は慎重かつ厳重に管理しており、希望に応じてお渡しし、職員とともに買い物ができるように支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 太陽荘（花ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方には自由に家族様と電話をしていただき、お持ちでない方には職員が手紙を通して家族様と交流が行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節に応じて写真の展示や利用者様と一緒に作成した飾りつけを行い、利用者様が居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関を入ると食堂とキッチンのある共用空間になっていて、エアコンで快適な室温に調整されている。キッチンは対面キッチンとなっていて、利用者の様子を見守りながら調理できるようになっている。季節や行事の写真が飾りつけられたホールには、テーブルとソファがあり、利用者は一人で新聞を読んだり、利用者同士で話し合ったり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとイスを設置し、利用者様一人ひとりが新聞を読んだり利用者様同士が楽しく会話できるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、本人の趣味や興味のあるものを設置、使用していただき居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には洗面台、ベッド、クローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者は馴染みの物や使い慣れた家具などを持ち込むことができ、テーブルや椅子などを持ち込んでいる。居室の入口には、自分の部屋がわかるように名札や顔写真が貼られている。塗り絵など利用者の趣味の作品を飾ったりして、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物外部は季節に応じた植物などを飾り、内部は利用者様が「出来る事」を活かして、自立した生活が遅れるように努めている。		